

信州高遠自然みつけ隊

～絵本からはじまる体験活動～

令和4年10月8日(土)～9日(日)
 【対象】小学生のいる家族
 【場所】国立信州高遠青少年自然の家

1. 趣旨

読書や読み聞かせと自然体験活動をリンクさせた活動を通して、読書と野外活動を身近に感じてもらう興味・関心を高めることで、家族ですすんで読書や自然体験活動をしようとする姿勢を養う。

2. 事業の概要

- (1)期 日 令和4年10月8日(土)～10月9日(日)
- (2)参加者 8家族 24名 (男6名、女18名 / 大人：11名、小学生：9名、幼児：4名)
- (3)日 程

| | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | |
|-------------|----|-----------|----|--------------|--------------------|----|----|-----|------------------|------------|----|------|----|----|---------|------------------------|------|----|
| 10/8 (土) | | | | | | | | 受付 | 自己紹介ゲーム 絵本タイム | 自然を見つけよう!! | | 荷物移動 | 夕食 | 入浴 | 絵本読み聞かせ | 子：夜の散歩 親：子どもと絵本(講義) | 就寝準備 | 就寝 |
| 10/9 (日) | 起床 | 清掃 片づけ | 朝食 | 片づけ 絵本タイム | 絵本にでてくる料理を作ってみよう!! | | | 閉会式 | | | | | | | | | | |

3. 企画運営のポイント

- ・各体験活動の前に「絵本タイム」を設け、体験活動の導入として絵本の読み聞かせを実施するという流れでプログラムを企画した。
- ・絵本専門士を招き、夜のプログラムとして絵本専門士による読み聞かせを実施し、その後、保護者向けに「読み聞かせと絵本」についての講話を企画した。
- ・小学校の低学年から幼児まで参加する事業であったため、時間的に余裕のあるプログラムを組んだ。

4. 参加者の声

- ・楽しく参加させていただきました。「絵本」をテーマにした形もとっても魅力的でした。
- ・自然観察会では本を読んで→実際に自分でそれを探してみるといった流れやその内容も秋ならではの面白かったです。
- ・なにげなく歩いていたところを意識するだけでこんなに自然を感じることができるんだなと時間を忘れて楽しめました！（絵本タイム① ⇒ 森でビンゴ）
- ・伝統色について、ほとんど知らないこと、自然の中で同じ色を見つけることの楽しさ、難しさを体験できた。とってもおもしろい時間でした。（絵本タイム② ⇒ 色さがし）
- ・とっても素敵な時間でした。絵本との向き合い方や考え方を素敵な声で教えていただいたり、興味深い本と出わせて下さった事にとっても感謝！本に携わる方って本当素敵な方多い！！（絵本専門士による読み聞かせ・保護者のための講話）
- ・ナイトハイク、特別な感じで喜んでいました。（子どもだけでナイトハイク）
- ・導入でダチョウの卵を見ること・割ることができて、子どもたちには新鮮であったことと思う。（絵本タイム③ ⇒ 絵本にでてくる料理を作ってみよう）
- ・絵本の通り作ろうとしたり、上手くできなくてやってもらったり、きっと次、同じ本や似た本を読んだ時に今日の事を思い出し、においや味も感じるのかなとうれしく思いました。（絵本タイム③ ⇒ 絵本にでてくる料理を作ってみよう）
- ・普段大切に思うことの多い絵本と自然体験のイベントに参加することができて本当にたのしく楽しい時間でした。2日間ありがとうございました。

6. 活動の様子

自然体験活動（森でピンゴ）



絵本専門士による読み聞かせ



ダチョウの卵を割ってみた



自然体験活動（森でピンゴ）



活動前の読み聞かせ



カステラパンケーキづくり



自然体験活動（色探し）



サンドイッチづくり



全体写真



7. 成果と課題

(1)事業アンケート結果（大人の参加者 10 名に対して実施）

| | | | | |
|----------|----------|-----|----------|----|
| 事業全体を通して | 満足： 9名 | 90% | やや不満： 0名 | 0% |
| | やや満足： 1名 | 10% | やや不満： 0名 | 0% |

(2)成果と課題

- 体験活動に関する絵本の読み聞かせをし、興味関心を高めてから体験活動に移るとい、つながりを重視(リンク)した事業を試みた。例えば、絵本「ぐりとぐら」を読み聞かせしてから「ホットケーキづくり」を実施した。子どもたちはこれからどのような体験活動を行うのか納得してから活動に入ることができたため、積極的に行動している姿が見られた。体験活動の導入として絵本を使うことはとても有効であった。
- 体験活動の間の自由時間に、他の絵本を夢中になって読む子どもの姿が見られた。幼児や小学生は絵本が好きだということを事業担当者、それを見守っていた保護者が共に改めて感じることができた。また、保護者は絵本専門士から、どのように読み聞かせをしたらよいかの講義を受け、家庭での読み聞かせの在り方について考える機会を得ることができた。そのことにより、保護者と絵本の読み聞かせと体験活動のリンクの重要性を共有することができた。
- 幼児、小学生を対象とした家族事業であることから、ゆとりのある日程でプログラム編成したことにより、参加した子ども同士、家族同士の会話が交わされていたり、絵本を読みたい子がじっくり読むことができたりと、ゆったり参加者は取り組むことができた。
- 本事業を実施するにあたり、絵本専門士のアドバイスをいただき、良質な絵本をバランスよくそろえることができた。今回の事業だけでなく、これからの研修支援事業の中でも有効活用していくことができる。
- 保護者が絵本専門士の講義を受けている間、子どもはナイトハイクを計画したが、入浴後の時間帯になってしまい、10月上旬の夜は寒く、防寒着の着用を勧めたが、湯冷め等の心配があった。ナイトハイクの活動は子どもたちには大変好評であったが、季節、時間、天候等より細かな配慮が必要である。